

## 3月議会の報告 ① 施政方針に対する質疑の特徴

2012.5.13 議会報告会

担当：中山 克己／議会運営委員

平成24年度 小金井市議会 第一回定例会初日の2月20日に稲葉市長より平成24年度の小金井市政に対する市長の施政方針が示されました。これは、毎年度当初の第一回定例会において市長が当該年度の市政運営にあたり市長の基本的な考え方や予算案及び主要な施策について方針、内容を述べるものです。これに対し、2月26日に開催された日曜議会において、各会派の平成24年度施政方針に対する質疑が行われました。

稲葉市長の施政方針は、環境と都市基盤についての柱「みどりあふれる快適で人にやさしいまち」、地域と経済の柱「ふれあいと活力のあるまち」、文化と教育の柱「豊かな人間性と次世代の夢を育むまち」、福祉と健康の柱「誰もが安心して暮らせる思いやりのあるまち」の4つの柱と予算編成の内容を中心に小金井市政全般に対しての基本方針を述べており、今回の会派別質疑でも市民の皆様が一番関心の高い可燃ごみ処理の件から、子育て支援、まちづくりや都市計画道路のインフラ整備関連、国民保険税・介護保険料関連、放射能測定、災害時要援護者支援、市の財政課題について等々と多岐に渡りました。

稲葉市長は施政方針の冒頭で「本市に今求められているのは、市政の安定、信頼の構築です」と述べ、ごみ処理問題をはじめとする諸課題の解決に向けて「一意専心」に取り組む決意を示しました。また、平成24年度の市政運営の基本方針とその施策のなかで「当市のごみ処理問題は深刻であり、一刻の猶予も許されません。これまで培ってきた近隣市等との信頼関係を基軸に、課題の解決に向けて不退転の決意で取り組み、二枚橋焼却場跡地の活用を基本としながら、一部事務組合への加入も含め、あらゆる方策を検討し、平成24年度末までに実現可能な方針を示します」と述べました。

これに対し、ごみ処理問題は全会派で現小金井市政の最重要課題であるという共通認識があり、ほとんどの会派で可燃ごみ処理とごみ減量施策に関したごみ処理の課題について質疑が行われました。質疑では、二つの会派から年度内ではなく、年内中、つまり今年末までに解決に向けて方針を示せないか、また、一つの会派から早急に方針転換をすべきではないかといった質疑が行われました。

稲葉市長は答弁のなかで、年内中の解決に向けてという質疑に対し「平成24年度中に実現可能な方策をお示しさせていただきますと申し上げた。今、全く現状において見通しが立たない中で、それを前倒しでということにはいきません。」「私の市民へのお約束というのは、安定的な処理に向けて実現可能な方策を平成24年度中にお示しさせていただきたいと申し上げてまいりました。そして、今、市長になって2か月たったわけですけれども、これで前倒しになるというような状況が発生しているということにはなりにくい。これを先に延ばすという考え方は持っていません。できるだけ早く解決するための努力は必要だ

と思いますが、ここで具体的に何を根拠に12月だと言えるのかという話になったときに私はお答えしようがない。ですから、お約束した平成24年度中にやらせていただくということに関しては、物事が、方針が定まるまでそう言い続けなければならないだろうと思っております。大変申し訳ありませんが、平成24年度中というのは変えるということにはなりません。」また、早急に方針転換すべきという質疑に対し「小金井市は、二枚橋焼却場跡地の活用を基本としていたが、極めて厳しい状況になったと認識していると申し上げます。そして、今後のことに関しては、これから状況等を把握しながら、どう対応するか考えていきたいと思っております。今後は国分寺市と十分な協議を行いながら、可燃ごみの安定的な処理体制の確立に向け、あらゆる方策を慎重に検討してゆく所存ですと申し上げます。」と答弁しました。

ごみ処理問題に関しては、他に、一つの会派からは今年度の広域支援での処理の残余分の確保について、二つの会派から生ごみの分別処理やごみ減量施策と啓発推進で可燃ごみ減量に取り組むよう質疑がありました。

ごみ処理問題の他には、市長提唱の『子ども元気プロジェクト構想』に関する質疑が3会派から、まちづくり・都市計画、JR高架下利用などについての公共事業関連の質疑が2会派から、災害時要援護者支援をはじめとする高齢者施策に関する質疑が2会派から、国民健康保険税と介護保険料の値上げに関する質疑が2会派から、放射能測定とその対策、原発に頼らないクリーンエネルギーの実現などの質疑が3会派から、市民協働に関する質疑が2会派から、行財政改革に関する質疑が2会派からなされました。他に、小金井市の財政状況、芸術・文化振興や食育、防災関連、第4次基本構想関連、市長の市政運営に対する質疑などがなされました。

今回の市長施政方針への会派別質疑では、ごみ問題の早期解決が求められており早期解決に向けた視点での質疑、いつまでも広域支援を受けるわけにはいきませんよという市長への助言からの質疑が続き、ごみ処理問題が論点になるといった特徴がありました。

以上、平成24年度第一回市議会定例会での稲葉市長施政方針に対する各会派に質疑の特徴について、市議会だよりの内容を中心にご報告申し上げます。詳細につきましては、お手元にご配布の市議会だより6ページをご覧ください。